



学研の個別学習

G-PAPILS 通信

(ジーパピルス)

塾の情報誌

G-PAPILS NEWSLETTER
第15号

先進の学習教材が1人ひとりの学習効率のアップと理解度アップにつながります。

学習サポーターとの 目標設定&学習計画

G-PAPILSでは、「マナミル」を使用した学習サポーターとの面談により、前向きな学習への取り組みを維持することができます。家庭の学びをサポートします。

新学期
スタート

定期テストの成績アップ! 教科書準拠の映像授業をフル活用!

聞き逃しや理解不足の場合も、繰り返して視聴可能。また、映像授業はテキストと連動しているので、ポイントをノートに整理するなど、集中力をキープして学習することができます。毎回の授業が定期テスト対策になります。

1人ひとりに
ピッタリの
学びを実現!

今の自分に合ったレベルから始められるので、苦手分野の克服や、得意分野をもっと伸ばすことも可能!進度をチェックできるマイページを利用して、主体的な学びの習慣を身につけます。

他とは違う!Gakkenが開発した画期的なシステムは「学びの習慣化」「コミュニケーションの活性化」を通して未来を拓く力を身に付けるアプリです。

新登場



塾に通う日だけじゃない学習管理

マナミル

お子さまの日々の学習状況を
管理するツールです。

家庭学習の取り組みや時間の使い方もサポートできるようになりました。

新機能も
続々追加予定

生徒



1週間・1ヶ月単位の
学習計画を入力

理解度の
振り返り

テスト結果
入力

自分で学習計画を立てて、勉強できるようになる!
成長を実感できるからモチベーションUP!

先生



子どもの学習計画・
理解度・進捗を把握できる

教育情報やお知らせを
保護者へ配信

学習進捗がわかるから、褒めたり

コミュニケーションのきっかけとなる!

新登場



個別最適化
学習を実現

(ジーディーエルエス)



個別に問題が最適化される「パピルスプリント」をデジタル化し、ICT端末上で学習できるようになりました。さらに全問題に解説授業がつきました。端末上に表示された問題をノートに解き、採点。解説授業を見て、弱点を補強します。中学生はこちらを宿題として課しますので、ご家庭でICT端末を使用して進めていただけます。



Gakken Group

最先端のICT教材を活用して、主体的な学びへの姿勢を育成します。

いま、教育現場でICT活用という言葉が盛んに使われるようになりました。簡単に言えば、パソコンやタブレットなどのITツールを使い、インターネット接続も含め、新しい学びの機会と方法を子どもたちに与えようという流れで、**文部科学省も推奨しています。**

従来の学習方法に慣れていないと、「タブレットで勉強なんてできるの？」と不安になってしまうかもしれません。けれど、コミュニケーション能力や情報活用能力、課題解決力が求められる**21世紀型の社会に対応するためには、情報機器を使いこなして、自ら学習する力が求められます。**知識を丸暗記することではなく、検索して正しい情報・学び方を見つけて自分で判断できる。そういう力が必要です。

我々教師サイドも、時代の変化に対応を始めています。

昔は「先生、どうすればいいですか?」「教えてください」と生徒から求められ、知識や解法を与える形で指導をしてきました。この指導方法は、実は生徒の自主性、成長を妨げてしまう部分があります。

これからの教師は、ティーチャーでなく、ファシリテーター(進行役)やコーチ(個別指導時)になる必要があると考えます。生徒に進む道を正しく示してあげる役割です。将棋の藤井二冠のことを思い出してみるとわかりやすいですね。藤井二冠は将棋を学ぶために自作のパソコンを使いこなし、師匠にも勝利しています。けれど、師は師であり道を示してくれる存在です。このように、今後はIT機器を使いこなした生徒が先生を超えることもありえるのです。



元々ICTの導入、つまり**学習にタブレットやパソコンを使うのは、「教育格差の解消」を目的**としています。日本は比較的教育格差は小さいとされていますが、それでも特に地方に住んでいる人は格差を実感する機会が多いでしょう。

また、今年新型コロナウイルスによる教育機会の損失は、子どもたちにとって大きな不幸でした。しかし春のロックダウンの時、海外ではICTを活用した遠隔授業が実施された国もあったのです。日本でも、動画配信という形で生徒に授業を見せるなど、**工夫していた自治体がありました。**これは昔では考えられなかった新しい学び方です。

ICTは、いつでも学習できる、写真や動画で理解度が上がる、自分で調べることができる、自分でまとめることもできる、という複合的な学習方法です。それに、なんとといっても一人ひとりに合わせた学習ができることが大きいと感じます。「個別最適化学習」で学びの選択肢が広がることは、学び方改革に繋がります。ところが、教育者の中にも「子どもにインターネットを使わせるのは危険」という考え方が蔓延しているのが実情です。けれど**情報リテラシー能力を身につけ、ITツールを使いこなすことは、これからの社会人に絶対に必要な能力です。**自分で学びを深める、それを指導するのがこれからの教師の役割であり使命です。

「知らなかったことを知る」「わからなかったことを理解する」「できなかったことができるようになる」。このように、学びは自発的なもの、教育は与えるものです。そういう意味で**「学びは教育を超える」**と言えるでしょう。何を学ぶか、子どもたちは自分で選び取って良いのです。そして、どのように学ぶかまだわからない子どもたちに、教師が学び方を伝えます。これはもちろん、生徒を自由放任するということではありません。社会のルールはきちんと守らなくてはならないということも、ICT活用を進める中で子どもたちは学んでいくでしょう。

G-PAPILSは、お子様の**個別最適化学習を強化することで、現状と目標の差を自分で埋めることができる生徒を育て、更なる成績アップを目指していきます。**今後にぜひご期待ください。



G-PAPILS事業本部 部長
小林 雄一郎先生

保護者の方必見です!

子供とともに成長する! 親のアプローチ [第10回]



コーチング準上級資格者
高橋 謙仁先生

通知表を見たら...

新型コロナウイルス感染症の影響により、全国一斉休校に始まり、運動会、修学旅行、校外学習など、学校行事が中止・延期となり、子どもたちにとっても何かとストレスを感じざるを得ない状況が続いています。

また、ある調査では保護者の約7割が「子どもがうまく育っているか不安になる」と回答したという結果がでてます。そんな中、例年通りに渡される通知表…。親としてはコロナウイルスも不安だけど、成績も不安…。通知表をみて親として何か言わなければいけないという「使命感」もあることと思います。「数学の評価が低いね」「やっぱり理科科目は苦手だよ」など、改善してほしいことを口にしてみますが、今年は、子どもの声にまず耳を傾ける「傾聴」の時間をつくってみてはいかがでしょうか。

子どもたちもコロナ禍の日々を過ごしてきました。例年以上に色々なことを思い、感じているはずです。また、通知表をみて子どもなりに感じていることがあるものです。通知表を渡された親として「アドバイスしなければいけない」「結果を評価しなければいけない」という、「使命感」を手放すことで、子どもはいつも以上に、言葉数が多くなり、感情を吐き出すようになり、気持ちも軽くなります。軽くなった時に初めて、親の言葉を受け入れられる状態ができます。

コロナ禍で、例年以上に家で過ごす時間が増えています。二言三言言いたくなる場面もありますが、親としての「～しなくてはならない」という「使命感」を手放してください。子どもの意見、考えをじっくり聞く、これこそが今、子どもたちに必要なことです。

「悩まずに子育てした人はいない」とよく言われます。このような日々だからこそ、肩の力を抜いて、子どもの言葉を「傾聴」する日々を過ごしてみてもいいのではないでしょうか。

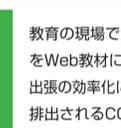
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

わたしたち学研スタディエグループ、自立型個別学習G-PAPILSは、SDGsの取り組みを通じ、世の中に貢献します。

学研スタディエグループ
自立型個別学習G-PAPILSの
SDGs



将来、教育分野でのグローバル化・ポータル化が進みどの国においても格差のない教育が受けられるよう、海外子会社のある国で、ローカルの子供たちを対象に教育ビジネスを提供します。



教育の現場で大量に消費される紙教材をWeb教材に置き換えます。出張の効率化により自動車や飛行機から排出されるCO₂削減に寄与します。

株式会社学研スタディエ
自立型個別学習G-PAPILSは
持続可能な開発目標(SDGs)を
支援しています

会社として、社員の健康にも配慮する施策と、男女の別なく長く働ける職場(システム・制度)を提供します。